交感発話慣用表現の二次的スタイルにみられた特徴

ー付加型デスについてー

肖潔(北海道大学大学院生)

1. はじめに

交感発話とは，phatic communion（Malinowski，1923）から発展した，あいさつを典型例とした表現である．本研究で述べるスタイルは丁寧語「デス・マス」を付けるかどうかの形式に着目するものである．従来，スタイル分化の基本的なパターンは，(1) 付加型「おはよう」→「おはようございます」；(2) 切り替え型「お元気だね」→「お元気ですね」のように示すことができる． このようなパターンを〈一次的スタイル〉とする．ところが，交感発話の慣用表現（主として，紋切り型のあいさつ言葉）では，本来スタイル分化はない表現にも〈デス・ッス〉を付加し，スタイル分化ができるようになっている． 例として（3）～（5）のようなものが挙げられる．

(3) どうもデス.
(4) すみませんデス.
(5) こんちはッス（＜こんにちはデス）.

従来，現代日本語の「デス」が接続できる述語は形容詞・形容動詞・名詞であるとされてきた．（3）～（5）のような現象は慣習化したあいさつ言葉が引用され，名詞化したあとに「デス」を付けたものだと解釈できる（肖，2022）．本研究では，このような〈「デス」・「ッス」〉の付加型を〈二次的スタイル〉（逸脱したもの）と称し，交感発話の慣用表現を考察対象とし，いかなる語用論的特徴を有しているのかを明らかにすることを目的とする．

2. 先行研究と問題提起

本研究で論じる〈「デス」・「ッス」〉の付加型という二次的スタイルは，新屋（2015）では，〈新しいデス文〉と呼ばれている．新しいデス文は，「動詞的な統語構造をなしているもの（動詞的な格体制をもつ名詞述語文）と，前接する形式を基準として認定したもの（非標準型接続のデス文）」とに分けられている（新屋，2015:67）．そのうち，〈あいさつ言葉＋デス〉は，非標準型接続のデス文に分類されている．〈あいさつ言葉＋デス〉におけるデスは，〈文形式＋デス〉〈感動詞＋デス〉の例と同様に，「いずれも文構成に必須のものではなく，文末に付加する終助詞的なものとして働いている」（ibid. :75）．このデスは，「適度な丁寧さの表示」（ibid. :75）という性質をもっており，「普通体/丁寧体という待遇表現上の 2 分類に収まらない話し手（書き手）の配慮意識の反映（中略）親しさと礼儀を共に保持する一種の配慮表現」（ibid. :77）であると述べている．しかし，あいさつ言葉の付加型デスに関する分析は詳細に踏み入れず、分析のデータは書き言葉を中心にしている．本研究では，とりわけ〈あいさつ言葉＋デス〉に着目し，書き言葉のみならず，話し言葉からのデータも取り上げ，その統語的特徴を考察したうえで，メタ語用論的な観点からデスに関する拡張的な用法を明確にする．使用データは，主として『日本語日常会話コーパス』完成版[1]（小磯ほか，2022．以下，CEJC）と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』DVD 版（Version1.1）（山崎，2014，以下，BCCWJ）である．

3. 事例分析

3.1 「どうもデス」

(6) [T003-021]（抜粋）

（（子供の幼稚園時代のママ友 4 人と友人宅で昼食会．音楽サークルに一緒に参加しており仲がよい．合唱の練習やランチ

[1] 会話データは基本的に日本語日常会話コーパスモニター公開版（CEJC）におけるトランスクリプトをもとにしている．トランスクリプト記号：
[ ]音の重なり　(0.0) 沈黙・間合い（秒）　. 語尾の音調の下降　? 語尾の音調の上昇　(( )) 状況説明

会をたまに行なっている.))

555　IC04 綾子　ありがとう:（0.1）．いいでしゅ．[いいでしゅ.

558　IC01 由美　[だいじょぶ?.

（ほかの話者の関係ない発話が挟まっているため，中略）

561→ IC04 綾子　（0.6）はい．（0.1）どうもデス.

（6）の会話場面はリラックスした快適な雰囲気であり，話者同士が楽しそうにおしゃべりをしている．「どうも」のような定型表現は，くだけたあいさつ言葉として用いられるほかに，感謝や謝罪の前に付け加えて程度副詞として用いられることもある．（6）では，相手に対して謝意を表すために，「どうもありがとうございます」ではなく，「どうもデス」を用いている．話者同士は，仲良い友人関係にあるため，「どうもありがとうございます」を用いると互いの距離をやや遠ざけてしまう．一方で，友人からわざわざおかずを取り分けてもらうという当然の期待を超える善意のサービス行為に対しては，「どうも」のような気軽に謝意を表す表現では，謝意の程度が不十分なように感取される恐れがある．しかも，この種の文は慣習化されてしまった用い方であるため，対人関係における待遇を表す効力がさらに弱まったところがある．よって，デスの付加は，逸脱した用法であるが，くだけた場面に用いられる場合，敬意を示しながら親密な関係を保っている．

また，「どうも」は，慣習化したことによって，引用されるようになっている．「どうもデス」は，「『どうも』デス」のように，「どうも」を引用して発話に取り込んだ形だと認識できる．いわば，「今は『どうも』と言うべき場面です」という二次的意味がとらえられるのである．その意味では，「どうもデス」は，「どうも」を引用したメタ言語であると考えられる．このようなメタ言語は，受け手を行為の直接対象者として扱うのではなく，会話の聞き役として扱い，間接的に感謝の意を表しているのである．

3.2　「すみませんデス」

（7）[T005-010]（抜粋）

((永井は35歳で区議会議員をしている．永井が後援者の人たちと食事をしながら定例の会合を開いている.))

2452→ IC06_永井　あー．（その）すみませんデス.

（中略）

2457　IC02_平川　あ あ（0.2）すいません.

食事中に隣に座っている須田が永井の皿に調味料を入れ，永井が「すみませんデス」（2452）とお礼をしている．須田は，70歳代で区議会議員である永井の後援者である．永井は，丁寧に述べるために「デス」を付加していると考えられる．また，「すみません」は，本来は動詞「済む」の連用形＋丁寧の助動詞「ます」＋否定と分析できる．「すみません」の慣習化によって，1つのかたまりになり，全体として「謝罪・感謝」という語彙的意味が生じるようになったと考えられる．それにより，名詞の性質をもつようになった．「すみません」の構文化によって，その中にある「ます」は丁寧さを表す効力も弱まったと考えられる．また，「ます」は丁寧体であるが，否定辞「ん」（「ぬ」の撥音便）が後続することによって，丁寧さが下がることになるのではないかと想定できる．「デス」の付加は，丁寧さを補充するのみならず，規範を逸脱した俗用であり，親しみをももたせている．よって，「すみませんデス」という「デス」が付加された形式は，知人関係にある話者同士における対人的敬意・丁寧さに関する微妙な調整を行っていると考えられる．

さらに，「すみませんデス」は，感謝の気持ちを表す意味表象を引用された発話の形で示しているのである．この種の引用は，間接話法のように，相手を行為の受け手として扱うのではなく，会話の聞き役として接し，間接的に謝意を表すことで受け手に直接触れないように敬意を払っている．ポライトネス的な対人的〈距離〉の関係としてとらえれば，直接相手に触れないようにするのは遠隔的であるととらえることができる．ところで，感謝・謝罪を表す場合には，「すみません」は「デス」を付加することができるが，声をかけるために用いられる場合には，「すみませんデス」の使用は不適切に見える．それは，「デス」は陳述の意味合いと発話（会話）を終了させる意味合いが強く込められているからである．

3.3　「こんにちはデス」

（8）[OP22_00003]（抜粋）

電話相談も可．日時／月～金，九時から十七時場所／区課内問合せ／ＴＥＬ八二九．六一四四（相談室直通）こんにちはデス，区長です．いよいよ春本番！日ごと日差しも暖かさを増し，そよ風に春が感じられるようになりましたが，区民の皆様には如何御過ごしですか.　（特定目的・広報紙, 2008年, BCCWJ）

（8）は，埼玉県さいたま市浦和区が発行した市報に載っている情報である．「こんにちはデス」の使用は，慣習化した表

現「こんにちは」の丁寧度が落ち，「敬意漸減」（「敬意低減」（井上，1999:62））という現象が生じたと考えられる．「こんにちは」は，あいさつとして使用されているうちに敬意がだんだんすり減ったため，話し手には聞き手に対する配慮意識という「聞き手意識」（滝浦，2020:94）が生じ，いわば，相手に対して敬意を示そうとするとき，何らかの敬意や丁寧さを表示する助動詞を付加したくなるのである．そして，「こんにちはデス」という新しい形が出現したというまさにこのことによって，反作用的に「こんにちは」の待遇性が下降したと考えられないだろうか．

また，区長は選挙を通して選ばれた権威をもつ上の存在である．「こんにちは，区長です」とのような言い方では，自分を上の立場に置くような意味合いが強く感取され，コミュニケーションにおけるいわゆる「上から目線」になりやすく，読み手の機嫌を損ねる可能性が高くなる．したがって，「俗用」的な言い方をあえて使用し，くだけた表現になるが，敬意は失われていないため，区民にも許されると考えられる．このような敬意を保ったくだけた表現は，規範より逸脱したものであるため，親しみをもたせ，読み手への近接化も実現できたのである．

一方，「デス」のメタ的用法からみると，「こんにちはデス」は，一種のメタ表象である．話し手は，受け手に対して「こんにちは」というあいさつ行為を直接行っているのではなく，「デス」を付加することによってあいさつを記述的に述べている．言い換えれば，「こんにちは」はあいさつという一次的発話であり，「こんにちはデス」はあいさつを引用した形で述べている二次的発話である．このような引用は，話者によって用いられた間接話法であるが，前節で述べたように，間接的に言い表すことによって，受け手に直接触れないようにすることができる．とすれば，ポライトネス的な対人的〈距離〉の関係として遠隔的に敬意を払っているととらえ直すことができる．

3.4 「はじめましてデス」

⑼ [OY04_01475]（抜粋）

（(番組の開始部にある雑談の場面である．吾郎と中居らは番組におけるオーナーであり，本番に入る前にゲストを歓迎し，紹介したりしている．ゲストは，野久保ら３人がいる．)）

01→吾郎：今日はなんだかお忙しい中番組出ていただきありがとうございます．はじめましてデスね．

02　中居：3 人ともはじめまして．ちょっと（野久保さん）似てるんですよ．

03　吾郎：あっどっちかというと僕もキュッとしてるんで．

（Yahoo!ブログ，2008 年，BCCWJ）

⑼は，以前フジテレビ系列で放送されていたバラエティー番組『SMAP×SMAP』内のコーナー「ビストロ SMAP」における会話の一部である．バラエティー番組は聴衆を楽しませるというエンターテイメント重視のものであるため，話者もなるべく堅苦しい表現を避けている．そのうち，吾郎はゲストに対してあいさつする際，「はじめまして」ではなく，「はじめましてデスね」という表現を用いている．また，「3 人ともはじめまして」⑵という発話は「3 人とも初めて会った」という意味を表している．この発話から，「はじめまして」は慣習的あいさつ言葉として引用され，名詞になっているととらえられる．あいさつ言葉が一つの塊になり，引用され名詞化していることが再度確認できる．

⑼の例からみれば，ここでの「はじめましてデスね」はあいさつをしているというよりは，「今は『はじめまして』と言うべき場面ですね？」という意味を表している．終助詞の「ね」は口調を柔らかくする機能をもっているほかに，相手の意見を確認したり，同感を求めたりして，「共通基盤」（common ground，「共有していると想定される」という考え方，カルペパー&ホー，2020:47）を作る（認識を共有する）という機能ももっている．「はじめましてデスね」は，通常みられるような決まりきったあいさつではないが，紋切り型のあいさつと同様な交感機能をもっている．あいさつ言葉を工夫して会話を切り出したことにより，あいさつの機能を果たしたのみならず，現場の雰囲気を和らげることができ，活気がないあいさつよりエンターテイメントの会話場面に相応しいものになったである．

具体的に言うと，「デス」の付加は，〈いま・ここ〉のこの場において，初めて会ったことに関するメタ的記述表現である．「はじめましてデスね」は終助詞「ね」を付加する原因にもよるが，「デス」を付加することによって，その時点で「初めて会う」という状態が生き生きと感取されるようになる．また，俗用的な言い方で相手と確認し合う，すなわち記述的述べ方をすることは，単に「はじめまして」というあいさつ言葉を利用するより，相手との親近感を生じさせる効果がある．

4. まとめと今後の課題

本研究では，本来スタイル分化できない慣用表現に「デス」を付加した二次的スタイルを中心に論じた．「どうもデス」「すみませんデス」「こんにちはデス」「はじめましてデス」という 4 つの例を取り上げた．そして，「デス」の付加について，主に 3 つの面から考察をした．1 つ目は，慣習化された表現の丁寧さを補充すること，2 つ目は，規範から逸脱した俗

用的な言い方となり，親しみをもたせること，3 つ目は，慣用された表現の引用から表現のメタ表象をとらえられることである．1 つ目の現象が生じたことにより，話者の「聞き手意識」という心理的動機が働き，丁寧度を上げるために「デス」が付加される．また，本来スタイル分化がない表現に「デス」を付加したものであるため，正式的な用法にはならず，くだけた場面に用いられる近接化を示す表現である．さらに，メタ的な言い方は，あいさつなどの慣用表現を引用して記述的に表すというようにとらえられる．それによって、間接話法で敬意を払ったり、相手との「共通基盤」を作ったりする。このように，二次的スタイルにおける付加型「デス」は丁寧さと親しみを含めた，対人配慮及び会話場面（改まったかくだけたか）を釣り合わせるという微妙な（対人的距離の）「調整」を行っているのである．上記の内容を次の図のようにまとめることができる．

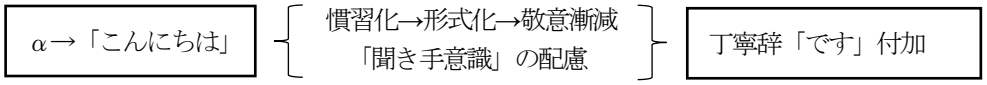

図 1　敬意漸減現象からみた「α＋デス」

二次的スタイルにおける「デス」の語用論的機能は次のようにまとめることができる．

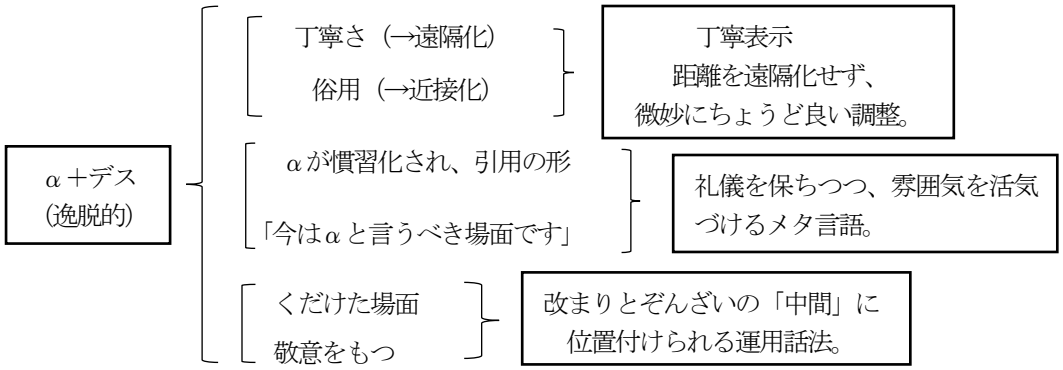

図 2　あいさつ言葉における逸脱的デスの語用論的機能

デスの付加は，表現が慣習化したことと関わっているが，慣習化の度合いはどのように判断するかはまだ実証できていない．また，「ネオ敬語」（呉，2020）と呼ばれる「ッス」（こんちはッス）とはどのような違いがあるのかも明確にする必要がある．これらを今後の課題として扱いたい．

謝辞　本稿は、北海道大学に提出した令和 4 年度の学位論文の一部をもとにしている。本稿の執筆にあたって指導教官の加藤重広先生から有益なコメントを頂いた．ここに感謝する．

参考文献

カルペーパー・ジョナサン＆ホー・マイケル(2020).『新しい語用論の世界――英語からのアプローチ』，椎名美智監訳，加藤重広・滝浦真人・東泉裕子（訳），東京:研究社.

井上史雄(1999).『敬語はこわくない　最新用例と基礎知識』東京:講談社.

小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香(2022).「『日本語日常会話コーパス』の設計と特徴」『言語処理学会第 28 回年次大会発表論文集』，2008-2012.

Malinowski.　B.（1923 [1972]).　Phatic Communion.　In:John Laver and Sandy Hutcheson(eds.　) *Communication in Face to Face Interaction，Selected Readings*，146-152.　Great Britain：Penguin Books.

呉　泰均(2020).『日本語聞き手待遇表現の社会語用論的研究』札幌:北海道大学出版会.

新屋映子(2015).「新しいデス文―その実態と機能―」、『日本語文法』15(2)、65-81.

肖　　潔(2022).「日本語交感発話慣用表現におけるスタイルの用い方―新しいスタイルの出現に着目して―」、『北海道大学国語国文研究』159、左(1)-左(16).

滝浦真人(2020).「『ポライトネスの原理・原則』と日本語ベネファクティブの敬意漸減」、加藤重広・滝浦真人（編）『日本語語用論フォーラム 3』、75-104、東京:ひつじ書房.

山崎　誠[編] (2014).『書き言葉コーパス―設計と構築―』講座日本語コーパス 2, 朝倉書店 (ISBN978-4-254-51602-9 C3381).